

十島村教育委員会だより 平成30年8月号

せわやがトカラ情報

南北160km 「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

8月・・・Welcome to Tushima 十島村教育長 有村孝一

8月1日に待ちに待ったALT(英語指導助手)の3名が鹿児島島にやってきました。そして、8月8日には2名がやってきました。人口700人弱の島に5人が派遣されたのです。村の要請を受けて、派遣したのは、東京にある自治体国際化協会(通称クレア)というところ。クレアは、ALTの他に、CIR(国際交流員)、SEA(スポーツ国際交流員)の3つの職種の人たちを受け入れています。現在、世界40か国から約5,000人が日本にきています。

口之島には、ブライアン シリス(アメリカ)さんとその奥様、シリス(アメリカ)さんは、諏訪之瀬島も兼務していただきます。中之島には、エリック ジェイムズ(アメリカ)さん。ジェイムズさんは、平島も兼務していただきます。悪石島には、ダヴォン ワンザ(アメリカ)さん。小島には、ジェイク ブラックバーン(カナダ)さん。宝島には、マシュー カーブ(アメリカ)さんがそれぞれ着任してもらいました。

これより先に、それぞれ鹿児島島に着いたその日に、役場で辞令交付式を行いました。その様子は、テレビと新聞において報道されました。5人は、「子どもたちが英語に自信が持てるようにしたい。」「子どもたちとの勉強や遊び、村の人たちとの交流を楽しみたい。」「しっかりとALTになれるように頑張りたい。」「などと抱負を述べています。

5人は、それぞれの島に住みながら、英語だけでなく子どもたちと一緒にその他の教育活動にも参加することになっていきます。また、たいへん日本語を話すのが上手です。また、小学生に日本語を話しながら英語学習を行っています。中学生については、英語による授業をお願いしているところ。

「レッツ トライ スピーク イングリッシュ！」



左から「マシュー カーブ」「ダヴォン ワンザ」「エリック ジェイムズ」



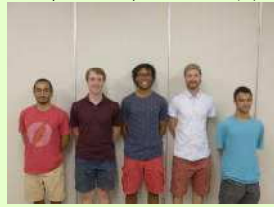
左から「ブライアン シリス」「ジェイク ブラックバーン」

また、村では、子どもたちをオーストラリアに派遣していますが、帰って来てからはALT相手に学んだ英語をどんどん使い自分の英語力向上に努めてほしいと思います。

学校のみならず、島においても英会話教室を開いていただき、誰でも英語に親しんでいただけたら彼らも喜ぶと思います。皆さんふるって参加してください。

今後は、残る諏訪之瀬島と平島について、来年度の派遣を予定しているところ。それで、7島全部にネイティブスピーカーによる英語学習の環境が整うこととなります。島の皆さん方も彼らを温かく迎えていただくとありがたいです。

願わくば、ALTが派遣されたことにより、高齢者の皆さん方まで、朝の挨拶が「グッドモーニング」となり、そして英語の響きあう村にらんことを切に期待するものです。そのためには、お互いが恥ずかしくがらずに、積極的に英語を使っていただくことです。



また、村では、子どもたちをオーストラリアに派遣していますが、帰って来てからはALT相手に学んだ英語をどんどん使い自分の英語力向上に努めてほしいと思います。

十島村「海外派遣ホームステイ事業」 in Australia

第7回となる海外でのホームステイを終え、派遣生5名が帰国しました。

学年により出発日は異なりましたが、成田空港への帰国は8月23日(木)で、鹿児島到着は24日(金)、同日午後4時から役場会議室で報告会を開催しました。

本年度の派遣生は次の5名でした。

- ①村上詩織さん(小6) ②平泉開翔くん(高2)
- ③金森七海さん(中2) ④西えほんさん(中2)
- ⑤上三垣理恵さん(高2)

【報告会での様子】(派遣生の発表から)

・優しいホストファミリーや地元の生徒と一緒に授業を受け、英語を使い心を通わせることができた。

・英語は最初 yes や ok がやっとながら、絵をかいてコミュニケーションがとれた。

・みんなで行ったスポーツ観戦、美しいビーチが素敵だった。

・機会を与えてくださった十島村、十島村教育委員会の皆様、親、学校の先生方に感謝したい。
※ 帰国後、一層たくましくなった姿に、この十島村の海外派遣ホームステイ事業の成果を見た気がしました。



東京オリンピック・パラリンピック教育実践校!

- 大会組織委員会から
 - ①口之島小学校
 - ②中之島
 - ③悪石島
 - ④小島
 - ⑤宝島
- 5校が「よい、ドン! スクール」に認証されました。

なつ(子供のうた)
なつ ちやうと あついな
たいよう ぎらぎら
いっばい あそべる
ともだち みんな
たのしそう
たのしそう
いっばい あそべて
たのしそう
やっとなつ
なつ
こわせ もみじ



シリーズ——新聞に投稿1「ひろば」若い目特集 (平成30年7/23南日本新聞) 悪石島中2年 西えほん

私は、小学生になる前から悪石島で生活していても島の学校は小さく人数も少ないですが、小学生とも交流ができ、全員と絆を深めることができ、私は大好きです。しかし、高校進学のため島立をした先輩や転校してきた友達から、大きな学校の話を聞いて「いいなあ」と思うこともあれば、話をする機会がなかなかないこともありました。

笑顔の歓迎に感謝



シリーズ —— 十島村で学ぶ 「島での学び」 平島中3年 野澤美玲

私は3ヶ月前に愛知県から平島へ来た。最初は不安だったが、慣れない生活も毎日を送っていました。島に来たことで、いろいろな人に出会いました。最初は挨拶がなかったけれど、みんな優しくしてくれました。最初は英語がわからなかったけれど、みんな優しく教えてくれました。島に来たことで、いろいろな人に出会いました。最初は挨拶がなかったけれど、みんな優しくしてくれました。最初は英語がわからなかったけれど、みんな優しく教えてくれました。

シリーズ——十島村で学ぶ

確かなものになった自分の夢 小島島中3年 福道



私は、「調理師になりたい。」という夢を持っていました。五月に「十島村中学校連合交流学習」という行事がありました。中でも私には、とても楽しみにしていた学習がありました。それは、鹿児島城西高校の見学です。「やっとなつこの日か来た。」という思いで、朝を迎えました。調理科を希望した私たちは、すぐ近くの調理室に案内されました。「もしかしたら、調理実習の手伝いができるのだろうか。」と聞いていたら、本当に手伝うことになりました。

本当に調理の体験ができるとは思ってなかったの、一気に気持ちが高まりました。理科で使っているガスの火力は想像以上に強く、手元が熱かったです。短い時間でしたが、とても貴重な体験ができました。最後に、先生が作ってくれた「奄美の鶏飯」をごちそうになりました。やはり、先生の作った料理は、とてもおいしかったです。

私は、今回の体験を通して、「調理師になりたい。」という自分の夢が、確かなものになりました。その夢を叶えるために、勉強や家での手伝いを今まで以上に頑張ろうと思います。そしていつの日か、自分が作った料理を家族に食べてもらいたいです。



諏訪之瀬島小中学校からのメッセージ

中川原 俊一

昨年4月に諏訪之瀬島に赴任してきましたが早くも2年目。1年目は学校や島での生活などすべてが新鮮で、ちょっとした不安もありましたが、2年目となった今年は腰を据えて日々の活動に取り組めることを実感しています。

前任校の隼人中中学校に、20年以上前に諏訪之瀬島に赴任した経験のある先生がおり、私の諏訪之瀬島赴任を大変喜んでくれました。その先生自身が「諏訪之瀬島に家を建てたい」と本気で考えていたことや「もう一度赴任したい」と思っていること、当時の島の様子などをいろいろ教えてくれました。

いざ私自身が諏訪之瀬島で生活してみても、その先生の思いがとてもよく分かってきた気がします。生活物資の面では不自由な思いをしたりすることはありますが、それでも考え方が、諏訪之瀬島の圧倒的な自然から、生きていくのに何が大切かということも考えさせられます。年齢的にも歳を重ねてきたからだろうと思いますが、物質的に満たされることよりも精神的に自分を満たしたい思いが強くなっています。

～「教職員であるあなた」への私からのメッセージ～

十島村に若い時に赴任される先生方が、とても羨ましいです。大切な道しるべを得て、それを以後にたくさん生かすことができると思います。個々の力でできることは限られますが、十島村の子どもや島のために共に頑張りましょう。

